

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第3区分

【発行日】平成18年3月23日(2006.3.23)

【公開番号】特開2000-219841(P2000-219841A)

【公開日】平成12年8月8日(2000.8.8)

【出願番号】特願平11-21776

【国際特許分類】

C 0 9 D 17/00 (2006.01)  
 C 0 9 D 11/00 (2006.01)  
 B 4 1 J 2/01 (2006.01)

【F I】

C 0 9 D 17/00  
 C 0 9 D 11/00  
 B 4 1 J 3/04 1 0 1 Y

【手続補正書】

【提出日】平成18年1月26日(2006.1.26)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】少なくとも顔料およびアニオン性基含有有機高分子化合物を含有する水性顔料分散体であって、該アニオン性基含有有機高分子化合物として溶解パラメータの異なる2種以上のアニオン性基含有有機高分子化合物を用いることを特徴とする水性顔料分散体。

【請求項2】溶解パラメータの異なる2種以上のアニオン性基含有有機高分子化合物のいずれもが、少なくともアクリル酸およびメタクリル酸の炭素数3～5のアルキルエステルからなる群から選ばれる1以上の化合物を構成要素として含有するアニオン性基含有有機高分子化合物である請求項1記載の水性顔料分散体。

【請求項3】溶解パラメータの異なる2種以上のアニオン性基含有有機高分子化合物のいずれもが、少なくともアクリル酸およびメタクリル酸の炭素数3～5のアルキルエステルからなる群から選ばれる1以上の化合物とスチレンとを構成要素として含有するアニオン性基含有有機高分子化合物である請求項1記載の水性顔料分散体。

【請求項4】顔料がアニオン性基含有有機高分子化合物によって被覆されている請求項1～3記載の水性顔料分散体。

【請求項5】溶解パラメータの異なる2種以上のアニオン性基含有有機高分子化合物の溶解パラメータのいずれもが、8.0～11.0である請求項1～4記載の水性顔料分散体。

【請求項6】溶解パラメータの異なる2種以上のアニオン性基含有有機高分子化合物の溶解パラメータの差がそれぞれ0.3～3.0である請求項1～5記載の水性顔料分散体。

【請求項7】溶解パラメータの最も小さいアニオン性基含有有機高分子化合物の溶解パラメータが8.0～9.4の範囲にあり、溶解性パラメータの最も大きいアニオン性基含有有機高分子化合物の溶解パラメータが9.5～11.0の範囲にある請求項1～6記載の水性顔料分散体。

【請求項8】請求項1～7記載の水性顔料分散体を含有することを特徴とする水性記録液。

